

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370400376		
法人名	社会福祉法人 美楽会		
事業所名	グループホームひだまり		
所在地	岩手県奥州市水沢区羽田町字久保37番地		
自己評価作成日	平成27年10月10日	評価結果市町村受理日	平成28年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2015_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0370400376-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成27年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔大切にしている。職員が笑顔で対応することにより、入居者様のより多くの笑顔を引き出せるよう努めている。畑に力を入れており、苗植えから収穫までを楽しんでいる。収穫した野菜はその都度食事で提供し、喜んでいただいている。ドライブの機会を多く持ち、気分転換を図るとともに、地域行事にも積極的に参加し理解していただけるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者とケアマネジャーが、今年度異動となり、また、利用者4名の入退居があったことで、自己評価は昨年より下がっていたが、利用者個々の性格や能力に配慮したきめ細やかな支援が行われている。利用者の介護度も高い中で、流しそうめんや石焼き芋等身近にできる楽しみを工夫し、普段、飲み込みの良くない利用者が焼き芋は上手に食べられていることで、職員も驚き、また喜んでいいる。利用者および職員が、お互いに理解が深まり、落ち着いたよい支援が行われていくことが期待できるホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
hi	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念・基本方針は、日ごろ目につきやすい場所に掲示し、常に意識し取り組めるよう心がけている。	管理者とケアマネジャーが、4月に異動となっていることで、今後の取り組みとして、日頃の生活の中で理念の実践が出来ているかを話し合っていく予定となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、地域事業にできるだけ参加し交流を図っている。回覧板により地域の情報を得たり、ひだまり通信を回覧することにより、日ごろの様子をお知らせしたり、行事への参加・協力依頼等を行っている。	「ひだまり」と隣接している「ひだまり2」と合同で、夏祭りを開き、昨年は「神楽」、今年は「よさこい」が披露されている。また、肉屋さんの協力で、焼き鳥をボランティア価格で売り、毎年好評を得ている。地域の方々20名の参加があった。地域との交流を大切にしたい支援が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の行事等に積極的に参加したり、事業所主催の祭り・避難訓練への参加・協力依頼をし実際に様子を見ていただくことにより、認知症への理解につながるよう努めている。また、ひだまり通信により情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では現状を報告・相談し、助言等をいただいたり、地区での出来事等の情報をいただいている。帰宅願望・エスケープ対応として、入居者が自由に入出りできる場所として、ウッドデッキ増築へとつながった。	グループホームの外に、非常ベルや回転灯を設置している。帰宅願望のある利用者のために、ウッドデッキの増設等運営推進会議の中で話し合い、改善に結びついている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題・課題が生じた場合には、市に相談・確認をしている。包括支援センター職員が運営推進委員のため、会議の場で情報・アドバイスをいただいている。	転倒報告書の書き方や研修受講等に関する事など、その都度、相談している。また、地域での催し等の情報を得ている。運営推進会議の委員でもあり、話しやすい関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「軽視しない」「叱らない」「否定しない」「拘束しない」をホーム4原則とし、本人の思いを尊重し、安心・安全に過ごしていただけるよう努めている。自立歩行困難者に対して、長時間同じ体勢を取らせない・エスケープ対策として、ウッドデッキ増築など、常に職員間で話し合い検討している。	されたくない声掛けについてや、同時間に同じことを(利用者)に求められる時の対応について、会議で話し合ったり、身体拘束の研修に参加して解決に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	担当制により、入居者の変化等にいち早く気付けるよう努めている。入浴時の身体チェックを重視している。又、日々の言葉遣いについても、言葉の暴力・心理的虐待になることのないよう注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法定後見制度利用の方が入居されたため、実際に対応しながら学んでいる。研修参加後は、伝達講習を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明については十分な時間をかけ、わかりやすい説明と、不安・疑問点について尋ねやすい雰囲気づくりに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン更新時・面会時に積極的にお話を聞く時間を設けており、そこで得た情報については職員間で話し合い、内容によっては運営推進会議で話し合わせ、そこから管理者会議・理事会に提案、実現したケースがある。	管理者やケアマネジャーの異動もあり、家族からの聞き取りは、十分に出来ていない家族もいると感じているが、今後、更に面会時等を利用し、家族と話す機会を持っていきたいと考えている。利用者に関しては1対1の時間(風呂等)を大切に意向や思いを聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時など、日常的に気付いたことがあればその都度話し合いを持ち、反映できるようにしている。週1回のミニ会議をもち、実践可能なものはすぐに行っている。内容によっては、管理者会議に挙げている。	ミニ会議は、毎週火曜日に予定している。現在は、職員体制の事情で出来ないこともあるが、日々のケアの中で気付いたことを話し合うように努めている。職員からの具体的な意見として、「食事メニューで野菜の量が少なくなっている」「髭剃りの仕上げをもっとちゃんとやろう」「スリッパ履きからシューズに変更」など挙げられている。また、行事の持ち方、業務の流れや勤務の休日の持ち方について意見を貰い、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入している。職員個々の状況については、月2回行われている管理者会議の場で報告し、把握いただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を、できるだけ多く持てるよう努めている。改善・研究については、法人内で年1回「研究発表会」を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会定例会・ブロック定例会への参加を通じて、他施設職員との交流・学びの機会を得ている。交換研修に参加することにより、他事業所の取組方法・状況等を知ることができ、今後の取り組みの参考になった。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族等からの情報収集に努め、その情報を基に本人からゆっくりと話を聞き、少しでも不安を和らげてあげられるよう努めている。孤独を感じぬよう寄り添いの時間を多く持つよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とのコミュニケーションを積極的にとるよう努めている。面会時には、日頃の様子をお伝えしながら、家族の状況・要望等をお聞きしている。情報を共有し、統一したケアに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や居宅ケアマネと連絡を密にとることにより情報収集し、ニーズの把握と対応に努めている。必要な場合には、他のサービスを含め提案・相談している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の負担にならぬよう配慮しながら、出来ること・好きなことを積極的に行っていたい。職員と一緒に行動することにより、やりがいを感じ、楽しんで行っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時には現状を報告するとともに、ご家族からの意向をお聞きし、相互の情報共有に努めている。問題が発生した場合には最善の方法と一緒に相談し、次のステップにつながるよう努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の理容店に訪問散髪していただいている。隣接のデイ利用者(友人)との交流に努めている。自宅付近を回るドライブを行っている。	職員は、ドライブの行き帰りに、利用者の自宅の側を通るようにしている。紅葉狩りやお花見の遠出の際、利用者の地元を走ると、非常に喜んでくれる。ドアで繋がっているデイサービスの利用者が訪ねてきたり、以前デイサービスに通っていた利用者がデイサービスに行き、一緒に過ごしている時がある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を考慮しつつ、レク等を通じ楽しめる雰囲気づくり・食事席等の心地よい居場所づくりに努めている。洗濯たみなど、自然に会話が弾み仲間づくりにつながる場の提供に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後2ヶ月程度、御家族の方とは事務手続きをとりながら近況をお聞きし、今後の方向性について相談に応じたり、手続き等の支援を行っている。入院時には付き添い、サマリーを提出するなど情報を詳しくお伝えできるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時や夜間等、1対1での対応時に自然に思いを話されることが多く、フェイスシート情報を参考にゆっくりと傾聴し、伝達・共有・対応している。家族に対しては、電話・面会時にお伝えし、相談・検討している。	夜間に職員に対し、「申し訳ないね。」と話したり、日中他の利用者の方々と過ごしている時には、話すことがないような内容を入浴時や夜間2人になった時に、話すことがあり、職員の心も癒されている。また、面会に来た家族からの情報提供もある。家族からも、面会や電話を通して、意向等を伝え、相談をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・関係者からの情報収集に努め、フェイスシートを作成している。フェイスシートにより情報を共有することができ、コミュニケーションをとるうえで役立っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の皆様の表情を大切に、表情からその日の状態をくみ取り、状態に合わせた声かけ・対応に努めている。現在「これならやれる」「これは私の担当」とばかりに、それぞれがやりがいを感じて手伝われる方が増えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の気づきをを大切に経過観察し、ミニ会議で検討している。それを基に、家族と確認しあいながら作成している。	週1回、火曜日のミニ会議の中で、食事や男性の髭剃りの時間、室内履きを靴に変更する、もっと関わりを持ちたい等、職員間で話し合っている。薬の分量を少なくしてもいいのではないか、との意見により家族に話し、訪問診療や訪問看護と連携し、薬が少なくなった利用者もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録は、日課をただ記録するのではなく、日々の気づき・経過を重視して記録するよう努めている。そうすることにより、必要な支援がわかりやすく、計画・実践へつながる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月1回日用品を持参し面会に来ていただくことになっているが、状況により預り金で職員が購入・準備している。定期受診以外の受診送迎。入院時対応。他施設申し込みのための日程セッティング等。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	駐在所に写真入り入居者リストを提出している。地域の行事・催し物にできるだけ参加し、一緒に楽しめるよう努めている。理髪は、地区の理髪店に訪問散髪していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療・緊急時対応の説明を聞き、協力医療機関に移られる方が殆どである。週1回の訪問診療時に日頃の様子を報告し指示をいただいている。協力医への受診は職員が対応。歯科は、家族の希望がある場合訪問診療にて対応。	利用者は、訪問診療や緊急時対応の説明により、かかりつけ医から協力医療機関にうつっている。週1回訪問看護師が体調管理に訪れている。また、訪問歯科診療により、2週間に1回口腔ケアを利用している利用者もいる(現在は1名の方)。薬は薬剤師が持ってきて、薬の変更等説明を受けている。眼科等の専門外は、家族の対応にて受診をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時に、報告・相談し指示を受けている他、日中・夜間を通して変化が見られた場合には、電話にて報告し指示を仰いでいる。協力医との関係もスムーズに行えるようアドバイスもいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーを作成し提出している他、入院時に付き添い、細かい点についても報告している。入院後の経過については、面会時又は電話にて確認・相談し、家族の不安軽減に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の時点で、事業所としての支援の限界のめどについては説明しており、その状況に近づいてきた時点で再度報告・相談し、区分変更・他施設申し込みの提案等、確認しながら支援している。協力医・訪問看護師との連絡を密にし、アドバイスをいただいている。	終末期の看取り介護はしていない。入所時に重度化した場合は住み替えが必要な事を説明し、同意を得ている。職員は心肺蘇生やAEDの研修を受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医療機関・訪問看護師と相談し「緊急時対応マニュアル」を作成し、それに沿った対応をしている。定期的な訓練は行っていないが、日中・夜間を通して看護師に報告し、指示お仰ぎ、対応できている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春と秋の年2回、地域の方々の協力を仰ぎながら避難訓練を実施している(内1回は消防署立会)今年度は、夜間の訓練を一晚に1人ずつ行い、実際に暗くなった状況下での避難を経験し、今後の訓練に活かすよう努めている。停電時に備えて、年1回発電機の操作訓練を行っている。	地域からの協力により避難訓練が行われている。また、昨年、夜間訓練も実際暗くなってから実施し、1名の利用者に夜勤者が付き添い、玄関まで誘導した。普段できていることが出来なかったり、不穏となった利用者もいた。停電に備えて年一回の発電機の操作訓練も行っている。備品は事務室に常備して点検もされている。	昨年の1対1の夜間の避難訓練を活かし、夜間に、職員が一人であった場合の避難訓練を行うことで、より実践的な避難訓練を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	四原則を基に、親しみやすい声掛け・場面場面にあった声掛けを心がけ対応しているが、慣れ合いの言葉掛けにならぬよう、職員間で意識するよう努めている。	職員は、利用者と目と目を合わせて対応している。利用者が個別に茶碗拭きや、洗濯ものを干すことや、たたむこと等役割を持っていることが、それぞれの利用者のプライドであり、自信に繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が何か訴えようとした場合には、ゆっくりと聞く姿勢をとるよう心がけている。自己決定が難しい方には、選択していただけるような準備するなど、意思表示しやすい工夫を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	多くの場合日課の遂行が優先的になっているが、その中でも少しでも本人の希望に添えるよう柔軟な対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれに少しでも興味を持っていただけるよう、日々の服装(色合い・柄・素材等)を褒め、話題にしている。入浴後の着替えについては、本人と相談しながら準備するよう心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物や行事食を取り入れるよう心がけている。畑で野菜を育てており、収穫の喜びを感じながら、献立に活かし召し上がっていただいている。準備・片付けについては、負担にならない程度に一緒に行っていただいている。	チラシを見ながら、何が食べたいか聞いている。刺身や果物が、よくリクエストされる。ひな祭りや子供の日等に合わせて行事食が作られている。訪問時は、茶碗拭きをしている利用者がいた。作った食事で、上手いかわからない時でも、「おいしいよ」と利用者から言われることで、励みになると、職員の意見が聞かれた。また、季節の物を取り入れようと、畑で採れたサツマイモを焼き芋にして食べてとても美味しかった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日頃の摂取量を把握し、体重の増減を確認しながら対応している。摂取困難となった場合は、食事・水分チェック表に毎回記録し、刻み食や主治医に相談しエンシュア対応している。夜間もトイレ起床時の水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて口腔ケアを行っている。本人の状況に応じて、介助・仕上げ磨きを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により個々の排泄パターンを知り、それを基に声掛け・誘導を行い、トイレでの排泄支援を行っている。	リハビリパンツの使用から、布パンツの利用にかわれそうな利用者が1名おり、適切に支援が行われている。便秘対策として運動と水分補給が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立をたてる際には、野菜を多く取り入れるよう心がけ、ヨーグルトの摂取にも努めている。自然排便が困難な場合は、主治医・訪問看護師と相談し、下剤を服用しながら排便リズムを整えている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日・時間帯はほぼ決まっているが、好みの温度・入浴順など、出来る限りの対応をしている。また、入浴剤を使用し気分転換に努めたり、1対1の時間を大切に、リラックスしていただけるよう努めている。	週3回の入浴日は決まっているが、入浴時間はその日その日の利用者さんの状態で違っている。利用者個々の好きなお湯の温度を把握し、個別に対応している。声掛け時に拒否があった場合は、時間をおいて、また声掛けを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々の希望に応じ、その間テレビを見て過ごされたり談笑されるなど、ゆっくり過ごしていただいている。寝つきの悪い方には飲み物を提供したり、そばでゆっくりお話を聞くなど安心していただけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情に目を通し把握に努めている。薬に変更があった場合は申し送りをしっかり行い、その後の状態確認・記録に努め、ケア会議等で検討し、必要な場合は看護師・主治医に報告・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態を見極め、得意なことが発揮できるよう役割を見つけ、感謝の言葉をかけながら、出来ることへの喜びを感じていただけるよう努めている。気分転換のため、積極的にドライブに出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望が強く、再三外に出られる方に対し、付き添い対応している。墓参り等の外出・外泊される方もいるが、外出の機会を持っていない方が多いため、ドライブや庭先での昼食・おやつを多く設けるよう努めているほか、地域行事に積極的に参加している。	家族の対応で、墓参りに出かけている利用者も少なくない。自分で希望が伝えられない利用者は、ドライブに出かける等対応している。胆沢町に大根抜きに出かける予定がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金対応をしており普段は所持していないが、地域の行事等の外出時に、おやつ等を購入していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、希望があった場合対応している。手紙は書ける方がおらず、家族から届いたものを読み聞かせ、居室の見えるところに掲示している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月ごとに入居者の皆さんと壁面制作をし、掲示している。室温・湿度管理に努めている。近日中に入居者皆さんの思いをくみ取り、ベランダが設置される予定となっている。	ホールのソファーでくつろいでいる姿が見られた。また、廊下の突き当たりにもソファーを配置しており、そこから見える外の景色が印象的であった。また、干支を描いた作品や出かけた時の写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の突当りの外が見えるスペースにイスを置き、自由に使ってもらっている。風を感じ、開放感を感じていただけるよう、ベランダ設置予定。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく使い慣れた家具や小物をお持ちいただき、安心して生活していただけるよう努めている。タンスやイスの他、仏壇持参の方もおられる。家族の写真も持参していただき、室内に掲示し安心していただけるよう努めている。	姿見や仏壇の持ち込みや、家族写真やペットの写真が飾られて、利用者個人の希望に沿った居室となっている。夜寝る前に毎日仏壇のご主人に話しかけている方のエピソードは印象深かった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわかりやすいように手作りネームプレートを付けている。身体機能低下により歩行が厳しくなった方には、ペットの向きや位置を変えることにより、安全に歩行・活動していただけるよう努めている。状況によりセンサーを使用している。		